



建学の精神

至誠・勤労・協和と隣人愛の精神に基づき、
平和な社会創りに貢献する人を育てる。



清水国際学園 校章・マーク
1994年、法人名・校名を変更した際に制定されました。中央上の十字架が神様の導きのもとに進む意志を、左右の曲線と白い雪が富士を象徴しています。地球は国際化社会での日本を、緑は美しい生命の源の大地を、青は多くの生物の生きる清らかな水を、そして、コバルト色の空は大気の美しい環境保全への願いを現わしています。

学校法人 清水国際学園

〒424-0809 静岡県静岡市清水区天神1-4-1

TEL : 0543-66-4155 FAX : 0543-65-9137



創立

創立者である市毛金太郎は、1906年(明治39)3月東京高等師範学校卒業後、秋田県立大館中学校から始まり静岡県立富士中学校で退職するまでの27年間、全国各地の中学校、師範学校、小学校の教員として勤務しました。その間、痛感したのは教育の男女格差でした。そこで、女子教育を行なう学校の創立を志し、静岡県富士市を中心として吉原、沼津、蒲原、清水、静岡などについて調査した結果、清水が最も発展性の高い有望の好適地と考え、まだ清水市に欠けている女子商業学校を設立することに決定しました。

1933年(昭和8)現在地に校地を求め、認可の申請を行ないました。翌年4月5日、新校舎の2階で〈清水商業女学校〉と〈清水裁縫女学校〉の開校始業式が行なわれました。新入生は募集定員250名のところ248名でした。

土佐出身で明治政府の司法大輔 細川潤次郎によって選せられた「至誠貫一生、勤労当百事、協和期万全」の句を校訓と定め、実務と誠実さを兼ね備えた女性の育成に努めたことから、在籍生徒数はやがて1000名を超えるまでになりました。

1945年(昭和20)7月6日夜の空襲で校舎の大半を焼失しましたが、翌年6月までにPTAと市内の有志の尽力により校舎が再建され、授業は継続されました。

学制の改革で、1947年(昭和22)〈清水女子中学校〉、翌年〈清水女子高等学校〉となり普通科と商業科が設置されました。1949年(昭和24)にはキリスト教主義の学校として、教育の根本に「至誠、勤労、協和と隣人愛」が据えられました。1994年(平成6)4月1日法人名を〈清水国際学園〉とし、校名を〈清水国際中学校・清水国際高等学校〉普通科(男女共学)・情報ビジネス科(女子)に変更し、新しい学校としてスタートしました。



創立者 市毛金太郎 (1877~1969年)
2代理事長 市毛道
謹厳実直、生徒を大切に、
信仰心の厚い、心の温かいご夫妻でした。

創立の背景と歴史

市毛金太郎は1877年(明治10)茨城県東茨城郡大洗町(旧・大貫村)で生まれました。茨城師範学校卒業後、小学校に勤務しましたが、1902年(明治35)改めて東京高等師範学校本科英語科に入学し、卒業後、秋田県大館中学校に勤務しました。その後、仙台2中、茨城県師範学校、山口県室積師範学校、横浜市大島小学校、岐阜県斐太中学校、山梨県女子師範学校、静岡県富士中学校で教鞭をとり、1933年(昭和8)8月大志を抱いて富士中学校を退職しました。

なんの縁故も知り合いもない清水市入江に住いを借り、新しい女学校を創立することに全力を尽くしたのです。清水市長、当時の教育課長、地元の鈴木社長夫妻、さくらえびの研究者 中沢毅一など、地元の多くの人の援助によって、志を実現しました。

お正月にはフロックコートに山高帽を被り、年始回りをしていたというエピソードどおり、理事長室からコートが見つかりました。

1945年(昭和20)7月6日夜の空襲で校舎の大半が焼失。PTA他の協力で3棟の校舎を建て授業を継続することができましたが、時間の経過とともに急造校舎の不便なところが噴出し、「こんな窮屈な、こんな汚い狭苦しいところで、教育ができますか、こんな狭いところで体操ができますか、なんとも校長として、先生、生徒に申し訳ない」と涙を浮かべたと、市毛の葬儀の弔辞の中で理事の真鍋頼一が述べています。

1949年(昭和24)にはキリスト教学校教育同盟に加盟し、教育の根本に「至誠、勤労、協和と隣人愛」が据えられました。これは創立者の信仰の導きによるものです。

1955年(昭和30)から1970年(昭和45)まで15年かけて学園の建物をすべて改築、完成されましたが、残念ながら市毛は最後の体育館の完成を見ることなく天国へ召されました。

市毛はさらに夢を膨らませ、「郷土館を付設し、一目で郷土の様子を学べるようにする」「婦人図書館を開設して公開する」「創立記念文庫に貴重な典籍を選択収集して、自由に閲覧させる」「同窓会館の建設」「短大・男子部・小学校・幼稚園の設置」などの構想を描いていました。残念ながらこの構想は実現していませんが、2011年(平成23)4月から地震に備えた新校舎への建て替えをするなど、新たな発展は市毛の志にかなうものでしょう。